

かさじぞう

むかしむかし びんぼう ころやさ じい ばあ
昔々、貧乏だけど心優しい、お爺さんとお婆さんがいました。

がつ ひ じい ばあ ふたり かさ つく まち う
12月のある日、お爺さんとお婆さんは、二人で笠を作りました。それを町で売って、
しょうがつ もち か
お正月のお餅をかうつもりです。

おおみそか じい かさ う まち で ひと う
大晦日、お爺さんは笠を売りに町へ出かけましたが、一つも売れませんでした。

ゆき ふ じい かさ う あきら うち かえ
雪がたくさん降ってきたので、お爺さんは笠を売ることを諦めて、家に帰ることにしました。

かえ みち じい ろくたい じぞうさま み じぞうさま ゆき つ
帰り道、お爺さんは6体のお地藏様を見つけました。お地藏様には雪が積もっていて、
さむ
とても寒そうです。

じぞうさま ゆき つ さむ かさ かぶ
「お地藏様。こんなに雪が積もって、寒いでしょう。この笠を被ってください。」

い じい う かさ じぞうさま あたま
そう言って、お爺さんは売るはずだった笠をお地藏様の頭にかけてあげました。

じい かさ いつ も ひと た じい
ところが、お爺さんは笠を5つしか持っていないくて、1つ足りません。そこでお爺さんは
じぶん かぶ て かぶ
自分の被っていた手ぬぐいも被せてあげました。

ばん じい ばあ まど そと
その晩、ズシン、ズシンという音が遠くから聞こえてきました。お爺さんとお婆さんは、窓から外を
のぞ
覗きました。

ゆき なか かさ かぶ じぞうさま おも にもつ ひ ある
すると、雪の中を、笠を被ったお地藏様が重そうな荷物を引っ張りながら歩いてきます。

いちばんうし じぞうさま じい て かぶ
一番後ろのお地藏様はお爺さんの手ぬぐいを被っていました。

しんせつ じい うち かさ かぶ
「親切なお爺さんの家はどこかな。笠を被せてくれてありがとう。」

おと おお じい うち まえ き じぞうさま おお にもつ お
音はだんだんと大きくなって、お爺さんの家の前まで来ました。お地藏様は大きな荷物を置いて、
かえ
帰っていきました。

じい ばあ うち そと で こめだわら むっ お
お爺さんとお婆さんが家の外に出ると、そこには米俵が六つ置いてありました。

ふたり たの しょうがつ むか
こうして、二人は楽しいお正月を迎えることができました。